

## 第3章 滋賀が進めるユニバーサルデザイン

滋賀県では、ユニバーサルデザインを県政推進の基本的な考え方の一つとして位置づけ、次のとおり基本目標を定め、この目標を達成するための基本姿勢および視点によって取組を進めます。

### 1 基本目標

淡海ユニバーサルデザイン行動指針では、次のことを基本目標とします。

すべての人が個人として互いに尊重し合い、  
等しく社会に参加し、家庭や地域社会でいきいきと生活できる  
ユニバーサルデザイン社会をみんなで実現

### 2 みんなで取り組むユニバーサルデザインの基本姿勢および視点

ユニバーサルデザイン社会は、だれもが幸せになれる社会、喜び合える社会であるとも言えます。このような社会を実現するためには、人々が持つ様々な特性や違いを理解し、認め合うこと、相手を思いやり、互いに尊重し合うことが基本となります。また、「援助する側」と「援助される側」といった固定的、一方通行的な考え方ではなく、それぞれが自己の可能性を活かし、主体的に社会に関わっていくことが必要です。

こうしたことを踏まえて、滋賀県では、だれもが自分のこととして考え、「みんなで取り組む」ことを前提として、次の基本姿勢および視点により、基本目標の達成に向けて、ユニバーサルデザインの考え方に基づく取組を進めます。

#### 1 みんなで取り組むユニバーサルデザインの基本姿勢

ユニバーサルデザインの考え方の基本となるのは、様々な人の利用や、その使いやすさなどについて、「はじめから」考えて計画、実施することです。また、結果はもちろん大切ですが、それと同様に、結果に至るまでの過程、その結果を維持、継続する過程、さらに良いものに改良していく過程での取組そのものも大切にしています。

このため、滋賀県では“「はじめから」の発想”および“「終わりなき」取組”を基本姿勢として、ユニバーサルデザインの推進を図ることとします。

## ア 「はじめから」の発想

ユニバーサルデザインは、事後対応ではなく、「はじめから」考えて、すべての人が生活、活動しやすい環境づくりを行うものです。

事業を実施するときに、「はじめから」すべての人の利用を想定することにより、高齢者用、障害者用などと利用者を限定するのではなく、さりげなく様々な人が使いやすいものとするを可能とします。

また、将来にわたりどのように利用されるか想定して取り組むことにより、環境負荷を低減させることができ、将来にわたって持続可能な社会を次世代へと引き継いでいけることとなります。

こうしたことから、次の二点を念頭において“「はじめから」の発想”をユニバーサルデザインの推進の基本姿勢に掲げました。

### (ア) すべての人の利用を想定

これまでは、健康で若く活動的な男性を主な利用者として多くのものが作られてきました。これからは、ユニバーサルデザインの考え方により、高齢者や障害者だけでなく、子ども、外国人、妊婦、大きな荷物を持っている人、乳幼児を連れている人、けがをしている人、病気の人など、様々な人の利用を「はじめから」想定して計画、実施していくことが重要です。



(手すり・ベビーチェア・介護ベット・オストメイト\*  
設備等を備えただれもが使いやすいトイレ)



(だれもが乗りやすい段差のない低床バス\*)

### (イ) 環境との共生

私たちはこれまで、便利で豊かな生活を手に入れる代償として、地球環境に大きな負荷を与えてきました。

これからは、私たち一人ひとりが環境に対する責任意識を持ち、環境に配慮した行動を行い、だれもが自然に環境改善に取り組めるような社会を目指していかなくてはなりません。「はじめから」考えることによって、たとえば施設の余計な改築を避けることができ、廃棄物の減量や省資源化を図り、改修に要する費用そのものも減らすといったように、未来を見通した環境配慮をし、より良い環境を遺していくこととなります。

## イ「終わりなき」取組

ユニバーサルデザインは、はじめから、すべての人が利用可能なように計画、実施するという考え方ですが、そのためにはどのような方策が考えられるのか、それが困難な場合にはどのような代替の案が考えられるのかなど、目標に向けてより多くの人々が参画し、様々な意見を聴きながらより良いものにしていくという過程やその姿勢が重要です。

また、できあがってしまえばそれで終わりというものではありません。作り上げたものの機能を低下させないよう維持し、さらに改良できないか絶えず考えることが重要です。

このため、次の二点を念頭において「終わりなき」取組をユニバーサルデザインの推進の基本姿勢に掲げました。

### (ア) 過程と継続の重視

ユニバーサルデザインは、すべての人にとって、より良いものに変えていくという考え方です。

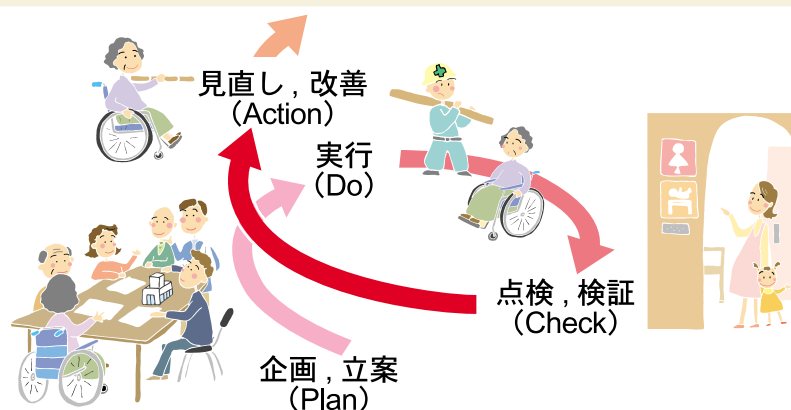
例えば、建物や製品が完成したときは素晴らしいものであっても、技術革新や利用者のニーズの多様化によって、あるいは時間の経過とともに、使いにくく感じられることがあります。また、利用者のニーズは人によって様々なので、すべての人を満足させることも困難です。

こうしたことから、一人でも多くの人々のニーズに応えられるよう、常に改良し続ける姿勢が重要です。

このため、事業などを企画、立案し(Plan)、それを実行し(Do)、実行状況を点検、検証し(Check)、その結果により見直し、改善する(Action)ことを継続するという、いわゆる「P D C Aサイクル」の考え方にに基づき、とどまることなくより良いものを目指していくことが必要です。

### (イ) 参加と協働による推進

ユニバーサルデザインは、「はじめから」発想し、「すべての人」が利用可能なように計画、実施しようとする考え方であることから、計画や実施などの各段階で、様々な人の意見を聴き、ともに考え、作り上げていく過程やその姿勢が重要です。



## 2 みんなで取り組むユニバーサルデザインの視点

ユニバーサルデザインは、すべての人を対象としています。しかし、人は様々な特性や違いを持っていますし、健康状態や成長過程での身体能力や知的能力の変化、大きな荷物を持っているときや子どもを連れているとき、天候などの状況の変化によっても、不便さや不自由さを感じることがあります。

こうしたことを考慮して、使う人を限定するのではなく、だれもが利用できるようにすることを基本としながらも、それが難しい場合には、できる限り広く対応できるような解決策をみんなで考えていく必要があります。この考え方を様々な取組に反映させていくために、気を配らなければならない事柄について、次の三つの視点にまとめました。

### ア だれにとっても簡単

建物や製品などのいわゆるハードだけでなく、情報やサービスといったソフトを含め、社会のあらゆる「もの」が、使う人の経験や知識などに関わらず、使い方がわかりやすい、利用しやすい、手に入れやすいことが重要です。

このため、ユニバーサルデザインを推進する視点の一つに「だれにとっても簡単」を掲げました。

### イ だれにとっても安全

人は、いくら注意をしても、ついうっかりしたり、意図しない動作や間違った操作をしてしまうことがあります。そのようなことにつながらないように、またそのような場合であっても大きな事故等にならないよう、はじめから安全策をとっておくことが大切です。

また、廃棄物問題、焼却に伴うダイオキシン問題や水質汚染、地球温暖化問題など、環境に対する安全性なども重要な視点です。

さらに、災害や事故発生時においては、だれもが的確に行動し、安全を確保できるよう配慮する必要があります。

こうしたことから、ユニバーサルデザインを推進する視点の一つに「だれにとっても安全」を掲げました。

### ウ だれにとっても快適

施設やサービスなどの利用にあたっては、できるだけ楽な姿勢や、十分なスペースでといった、心理的、身体的負担をできるだけ感じさせないことが重要です。負担感から利用がためらわれ、利用されないということは、利用できないことと同じことになってしまいます。

このため、生活の質(Quality Of Life)の向上が問われる現代にあっては、単に利用可能であるということにとどまらず、快適に利用できることが重要です。

こうしたことから、ユニバーサルデザインを推進する視点の一つに「だれにとっても快適」を掲げました。